

猿新聞

編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

イノシシを知って 被害を防ごう

イノシシによる被害は山間地が大半だったが、近年山際から離れた比較的平坦な地域にまでイノシシ被害が広がっています。

被害の形態は、食害の他、踏み荒らしであり、作付け期から収穫時期まで長期にわたって発生するため、耕作意欲にも大きく影響しています。

現在の被害状況を軽減させるためには、集落の耕作地周辺に生息する個体を捕獲する方法以外に策がないように思います。

イノシシの警戒心は強く、本来人前に姿を現す動物ではありません。臆病な性格から環境の変化に敏感で、ちょっとした変化に警戒心を抱きます。一方で大胆な面もあり、単なるおどしにはすぐに慣れてしまいます。

どですが、雑食性で家庭の残飯なども食べます。夜行性のイメージがありますが、昼間行動する昼行性の動物です。

「エサ」にありつけた田畑には何度も侵入します。大きくなったイノシシは体重が100kgを超え、オスは大きな牙が出ます。

昭和50年当初は、狩猟が盛んで生息数も少なく、山間の田や畑をチョコット荒らすにすぎませんでした。

また、メスは一年に一度、平均4頭から5頭の子供を産み、繁殖力も旺盛です。また、運動能力や学習能力も高く、成獣では助走なしに20秒、子イノシシでも70秒ジャンプすることもできます。

70キログラムものものを鼻で持ち上げることもできるそうです。

イノシシの好物はサツマイモやスイカ、稲、果物などの農作物や、昆虫の幼虫、ヘビ、ミミズなど

大は、イノシシに好適な生息域を提供し、里地の被害発生の一因となっています。

全て対策は一軒でやるよりも、集落全体で取り組むことが重要です。

「収穫前にイノシシに浸られ大騒ぎ！。ドロナワ式で柵作り。収穫がすむと「喉元過ぎればナントヤラ」。また、秋が来ると同じことの繰り返し。これではイノシシ被害はエンドレス」。

侵入防止柵の設置は、最も効果的な方法の一つで、他の多くの獣にも効果があります。

侵入防止柵と言っても、板状のもの、網状のもの、電気柵など様々なものがあり、それぞれに一長一短があります。

代表的なものとして、トタン板などで囲んだものがああります。

トタン板柵は比較的廉価で視覚を遮断するのでイノシシ柵には最も適していると思います。

さまざまな資材が市販されていますが、現場にあわせて正しく使用しましょう。

因みに、名張市でのシカ、イノシシの捕獲頭数は次の通りです。（名張市農林資源室調べ）

平成24年4月～10月 シカ113頭
イノシシ26頭
平成25年4月～7月 シカ144頭
イノシシ32頭

「野生獣による農林産物への被害について考えるフォーラム」を9月17日伊勢安土桃山文化村に於いて開催されました。

名張からも行政関係者をはじめ、農業委員会、猟友会、モンキードッグ倶楽部から多数参加。

三重県では、平成22年度から毎年9月を「野生鳥獣による農林水産物への被害について考える月間」と定め、野生鳥獣との共存を図りながら、農林産物への被害対策を行うことの重要性について考えるを目的として、啓発活動と併せたフォーラムを開催しています。

（写真）挨拶される鈴木知事）



サルの出没状況 名張A・B群

野生の二ホンサルは、群れをつくって集団で一定の行動範囲の中を、常にエサを求めて遊動しています。一部は離れサルとなつて単独行動）

7月のはじめ頃からB1・2の所在が的確に把握できなくなっていました。どうやら群れ分かれした模様です。B群ではいま何が起きているのでしょうか。

集団内での権力争い。人間社会との軋轢（追ひ払いの強化）。

エリア内のエサ不足。これらが重複して分裂したものと考えられます。

発信器B1・2装着の集団は遠く離れた宇陀市菟田野町周辺で電波と15～16頭の個体も確認（宇陀市職員廣田氏）されています。また、9月18日、山田彩氏（近畿中国四国・農業研究センター）が現地に入り宇太水分神社付近でも確認されています。

同日、古川氏と同行し菟田野町周辺を地元の情報を得ながら巡視。残念ながら確認することが出来ませんでした。

地域の人の話によると「7月中旬からサルの目撃情報が急に多くなった」。

確実な頭数は今のところ解りませんが、菟田野町周辺は無防備でサルにとって非常に環境の良い地域ですので、B群の大多数が移動したのではないかと考えられます。

B群エリアには、頭数は不明ですが、B3群とハナレサルが元通り遊動をしていますので、今までの通りの警戒は必要です。

追ひ払いの強化は結果として群れの分裂を招き、被害地域拡大につながりますので無謀な追ひ払いは避けて下さい。

二ホンサルはこれから交尾期をむかえますので、なにか変化が見られるかもしれません。

今後は、集団の行動を注意深く見守っていきたいと思っています。

農林資源室では、今年度個体数調査（10月下旬～11月上旬）を行う予定になっていたので、個体数確認のうえ対策を考えたいと云っています。



指南員報告

9月のサルの動向

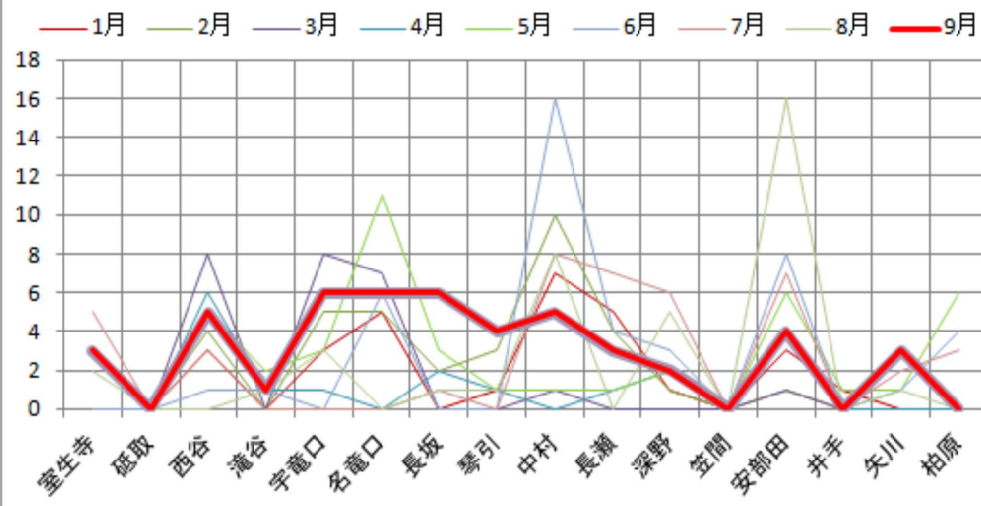
A群は、先月ごろまで夏野菜が豊富にあったため集落、地域に出没して被害の報告がしばしば聞かれたが、野菜が少なくなった今月ごろから、栗、柿等を狙って青蓮寺湖と比奈知湖を往来する日が多くなっている。

B群は先月ごろから不明のB1、B2の発信機のサルの群れが菟田野方面へ分裂、移動したもようであり、B3の発信機のサルの群れについても受信するものの、群れを目視できない日が続いている。農作物の被害の報告も殆ど聞かれない。

ハナレサルの出没が以前より多く聞かれるようになった。

★9月26日菟田野方面へ分裂した群れが西谷周辺で受信、目視しました。

名張B群移動グラフ



名張A群移動グラフ

